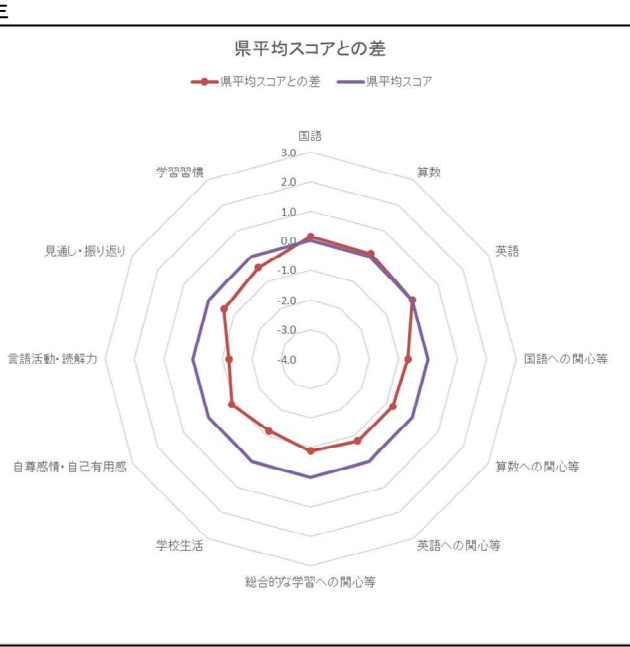


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立中央小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○全体的には、県や市の正答率をやや上回っている。 ○各教科で対話を適切に取り入れた授業をするよう取り組んでいることから、話す・聞く力がつき、県の正答率を9.1ポイント上回っている。 ●漢字を正しく覚えていても、それを文の中で正しく使う力が十分ついていない。 ●目的に応じて複数の文章を比べて読み、自分の考えをまとめる力が十分でない。	・毎月の漢字会を継続すると共に、新出漢字の学習では、意味の理解が十分にできるよう工夫したり、他教科や日常で、覚えた漢字を文章中で積極的に使うよう指導を重ねる。 ・国語科を中心に、他教科でも図書館を活用し、様々な種類の資料を読む活動や、資料についての自分の考えとその理由について明確にして書く学習を充実させていく。
	算数	○全体的に、県の平均正答率を概ね上回っている。 ○特に直方体などの図形についての技能や知識・理解に優れている。 ●図形の条件は理解しているものの、問いに対して、その条件をもとにして説明する力が十分でない。 ●数量の関係を利用して、三角形の個数を言葉と数で説明するなど活用する力が十分でない。	・毎月の計算会により、今後も四則計算の力の充実を図り、確実にできるようにしていく。 ・学習問題の読み取りを丁寧に行うことを習慣づける。 ・分かったことを、算数用語を適切に使って表現することを大切にし、ノートへのまとめ方を工夫したり、ペア対話で伝えたりできるようにする。 ・授業の中で算数のよさに気づいて、生活や他の学習に活かせるように、授業での活用場面を充実させる。
6年	国語	○全体的には、県や市の正答率をやや上回っている。 ○各教科で対話を適切に取り入れた授業をするよう取り組んでいることから、話す・聞く力がつき、県の正答率を5ポイント上回っている。 ●文章中の修飾語・被修飾語について十分理解できていない。 ●複数の文章を読み、内容の違いをとらえて簡潔にまとめて読む力や、情報を整理して書く力が十分ではない。	・修飾語・被修飾語について繰り返し学習し、授業での文章の読み取りの中でも、文の構成を確認する指導を重ねる。 ・国語科において、読み取った文章の内容を的確に要約する学習を学年を追って重ねると共に、他教科でも図書館を活用して、複数の資料を読み取って、整理し活用する学習を充実させていく。
	算数	○全体的には、県や市の平均正答率を上回っている。 ○毎月の計算会などにより計算技能が定着し、分数や小数の計算力は優れている。 ●円グラフを読み取ったことをもとに比較量を求めるなど、複合的な問いを読み解く力が十分でない。 ●資料をもとに必要な計算や言葉を使って説明するなど活用する力が十分でない。	・毎月の計算会により、今後も四則計算の力の充実を図り、確実にできるようにしていく。 ・授業において、資料が的確に読み取れるように指導すると共に、読み取ったことをもとに必要な計算や言葉を使って説明する学習を充実させる。 ・授業の中で、算数のよさに気づいて、生活や他の学習に活かせるように、授業での活用場面を充実させる。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

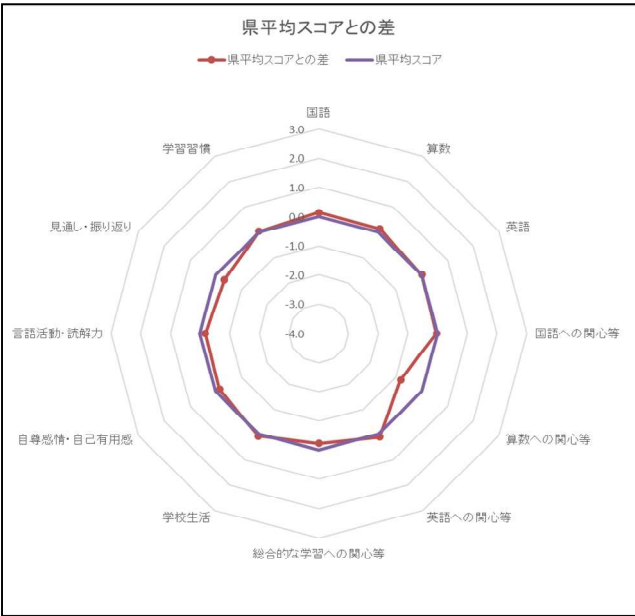
		国語	算数
5年生	本校	62	60
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数

5年生 54 人

各スコアの範囲は-3から+4までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。  
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	54	61
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数

6年生 62 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業では、学習の目標と振り返りをノートにきちんと記録している児童がほとんどで、めあてを意識して学習に取り組んでいる。 ●学校図書館を活用しての授業を好んだり、それが他の授業でも役立っていると感じている児童は、6割程度いるものの、県の平均を下回っている。 ●話し合う活動を通して、自分の考えが深まったり広がったりすると考えている児童は、半数にとどまり、県の平均を下回る。	・国語科において重点単元を設定して取り組んでいる学校図書館活用授業の、さらなる充実を図ると共に、他の教科においても、図書館を活用した授業を行っていく。 ・今年度から取り組んでいる対話により深まる授業について、ペア対話やグループ討議の在り方、また、効果的な対話場面等を工夫し、さらなる充実を図る。
	家庭学習に関わる事項	○宿題は多くの児童が取り組み、家庭学習は1時間以上している児童が多い。 ○学校の授業の復習を家庭でしている児童は、県の平均を上回る。 ●家庭学習を誰かに言われなくてもしたり、計画的に取り組んだりする児童は、半数程度で県の平均を下回る。 ●スマホ等のメディア接触の時間が1時間以上という児童は、4割近くで県の平均を上回る一方、読書時間が30分以上の児童は、2割にとどまり県の平均を下回る。	・家庭学習の時間は、確保されているので、内容が充実するように、自学の取り組み方の指導や評価の仕方を工夫していく。 ・メディア接触の時間を減らし、家庭での読書の時間が確保でき、習慣化が図られるよう、メディアコントロール週間の取り組み方や読書指導を改善、充実していく。
6年	授業改善に関わる事項	○授業では、学習の目標と振り返りをノートにきちんと記録している児童がほとんどで、めあてを意識して学習に取り組んでいる。 ○授業では、ほとんどの児童が、グループやクラス全体で話し合い、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると感じている。 ●算数の学習には、粘り強く取り組んでいるものの、算数が好きだと感じている児童は、5割に届かず、県の平均を下回る。	・対話により深まる授業について、ペア対話やグループ討議の在り方、また、効果的な対話場面等を工夫し、さらなる充実を図る。 ・算数の授業では、学習問題が身近で課題意識がもてるようにする工夫や、対話を活かして課題が共有できるような手立てをとることで、関心を高めるようにする。
	家庭学習に関わる事項	○宿題は、ほとんどの児童が取り組み、誰かに言われなくても自分から取り組む児童が多い。 ○授業の復習をしている児童は7割を超え、県の平均を大きく上回る。 ●家庭学習に1時間以上取り組んだり、計画的に取り組んだりしている児童は、半数にとどまっている。 ●スマホ等のメディア接触の時間が1時間以上という児童は、5割を超える一方で、読書時間が30分以上の児童は、3割を下回る。	・年度当初に配布した家庭学習のてびきをもとに再度取り組み方について指導する。 ・より意欲的に自学に取り組めるよう、自学ノートの評価の仕方を工夫すると共に、計画的で効果的な家庭学習の取り組みとなるように指導する。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

